

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・近隣店舗の閉店に伴い、既存店舗へ客が流入している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月に入り、外国人のツアー客が特に多くなっている。祭り目的の客も多く、来店客数が前年同様に増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・クルーズ船の入港増加もあり、商店街は買物客でにぎわっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・年度初めでもあり、改元による準備のために来客数が多い。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・春の不安定な天候から初夏の安定した天候に恵まれ、客足も徐々に増加している。
		一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・気候が穏やかであったことから、青果物の生産量が増え、価格が抑えられている。消費量も増加傾向にあり、売上は順調に伸びている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・高額単価の商材が売れているため、売上が若干良くなっている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・購入点数が多い客が増え、販売量は増加している。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・暖冬が終わり春を迎え、例年並みの販売量に戻っている。特に減少一方だった客数が、前年を上回っている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・天候に恵まれ、新生活により消費者が増加したことにより、景気は良くなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・暖冬の影響により非常に売上が悪かった反動で、今月の販売量や来店客数は、若干良くなる。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・4月に発売されている新型の車種は、安全装備の充実が支持されており、売行きが好調である。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	販売量の動き	・1～2月は、年末のコーヒー需要も一段落し、売上が下がる傾向にあるが、その時期の購入量と来店客数を比較すると若干回復している。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	来客数の動き	・平成に改元された時は自粛モードであったが、今回の改元では歓迎ムードが高く、また桜も長く咲いたため、人出が多く前年より売上が伸びている。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・暖かくなり、旅行の需要が増加している。
		都市型ホテル（販売担当）	単価の動き	・訪日外国人が、当市で好調である。台湾、中国、韓国等の宿泊客が多く、6月までは順調に推移している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・来店客数が増加している。季節の変わり目になり、買換えの需要により購買数が増加しているが、必要以上の商品を購入しないところを見ると、景気が良くなったとはいえない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・数年前までは、3～4月は客が一番動く時期であったが、ここ数年客の動きが大変悪く、来街客数が少なく、客の購入単価も減少している。1～2月と比較しても良くなっている実感がない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・卒業や入学、就職等と家計の負担が多い時期で、主婦のやり繰りが大変になっている。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・魚の売行きが悪い。しげが続く漁獲量が少ないにもかかわらず、魚価が上がらず、高値で販売すると売れ残る状況である。当地域の魚業界は落ち込んでおり、景気の良い話を全く聞かない。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・過ごしやすい季節になり、人通りも活気がある。売上も徐々に伸びているところに10日間の大型連休は、中小企業や小売店にとって痛手である。人の動きは、遠出又は繁華街に集中していき、当然売上は減少する。	
	百貨店（総務担当）	それ以外	・当施設は、核になるテナントが撤退し、一部では営業継続をしているものの、来店客数の大幅減少等で前年を大きく下回っている。今後の景気は不透明であり、見当がつかない。	

百貨店（企画担当）	販売量の動き	・好調である免税品、雑貨、化粧品等の売上は、継続して堅調に推移している。一方で高額購入者の売上割合が若干減少している。
百貨店（営業担当）	単価の動き	・学校の制服渡しや紳士企画の来店促進を図り、大型物産催事では、会場への入場制限や待ち時間等が発生した。また、キャラクター催事では、親子孫3代の来場や子供の元気な声で店内が明るくなっている。入店客数が上向きになり、平日には、地元客の来店増加に加え、クルーズ船での観光客の来店が増加し、改元関連でも入店客数及び商品単価が上向いており好調である。
百貨店（売場担当）	来客数の動き	・催物やイベントへの集客が増加している。
百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク10連休や改元を控えて消費意欲の高まりはあるが、今春は気温のばらつきが多く衣料品の動きが鈍い。
スーパー（店長）	来客数の動き	・売上の前年割れが続いている。衣料品のほか、食料品でも精肉、青果物等が前年を大きく下回っている。客数の減少が止まらず、単価の伸びではカバーしきれていない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価、購入品数は前年並みであるが、客数の減少により売上が前年を下回っている。
スーパー（店長）	単価の動き	・改元による景気上向き感が報じられるが、大型連休を控え、日々の買物動向はまだ堅実で、財布のひもは固い状況である。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・ポイント付与型電子マネーの普及推進等により、会員売上比率は増加しているが、競合先との価格競争の影響もあり、非会員の売上比率が低下している。結果として、全体の客単価は上昇傾向にあるが、来客数減少のマイナス効果の影響が大きく、売上は前年比マイナスで推移している。
スーパー（統括者）	単価の動き	・人件費や原材料価格の値上がりにより、一部商品の値上げをやる動きがあるが、ディスカウントストアを中心に価格は据置きされ、小売価格への転嫁はできない。客は必要なもののみ購入しており、客単価が下がる傾向も出始めている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新社会人や学生等により購買客は増加したが、前年を上回るほどもなく客数減少が続いており、厳しい状況が継続している。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・週末に雨が降ることが多く、週末に客足が増えるような店舗では売上が伸び悩んでいる。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・近隣の競合店が改装で閉店している影響もあり、売上や来店客数は伸びているが、客単価が伸び悩んでいる。店の売上は高いが、全体的に景気は伸びていない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来街者が極めて少なく、来店客もほとんどない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客の来店数に変化はない。
衣料品専門店（総務担当）	それ以外	・来客数、販売量、単価において、底ばい状態で、改善が見当たらない。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・入店客数が3か月平均で前年比90%と低迷している。1月と4月の前年比はほぼ変わらず、横ばいである。
家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・例年どおり、4月第2週から客足が鈍り売上も厳しくなっている。ただ携帯電話は、分離プランの情報により駆け込み需要が始まっている。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・テレビ、エアコンディショナー、冷蔵庫等の主力商材は前年超えて推移しているが、客数が減少傾向である。
住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・大型イベントで売上は伸びているが、消費税引上げの影響も大きいと思われる。反面、イベント以外では客足が落ち込んでいる。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、高止まりしている。販売量については、前年と比較してもほぼ変わりが無い。

その他専門店 〔ドラッグストア〕(企画担当)	単価の動き	・ 過当競争により、単価及び粗利が低下している。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(支配人)	販売量の動き	・ 気温や施設の販売促進が要因で、やや苦戦している。気温的要因としては、気温の変化が大きく、主に衣料品店の売上が苦戦している。販売促進要因としては、新たにクレジットカード導入の告知を大々的に行ったが、買い控えが発生し、マイナス要因になっている。これらの理由で若干マイナスがあったものの、全体の景況感としては変わっていない。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(統括者)	来客数の動き	・ 気候の影響により、販売高は左右されているが、来場の動向は変わらず、外国人動向にも大きな変動はない。
高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・ 大型連休を前に消費者は節約志向にあり、客足が遠のいている。
都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・ 施設数増加に伴い稼働率は下降傾向であるが、単価は維持できており、景気は横ばいである。
都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・ 売上が、連日非常に好調である。特に高額なシャンパンの販売が多く、年末並みの販売量を記録している。
タクシー運転手	来客数の動き	・ 大型連休前であり、地方選挙等もあることで、ある程度、景気の落ち込みを予想していたものの、国内外の観光客に加え、催物等活気を失うこともなく、堅調に推移しタクシー乗客率も減少することがない。
タクシー運転手	お客様の様子	・ 夜は歓迎会等でタクシー利用があったが、昼の利用は少なかった。
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・ 例年繁忙期に当たるが、販売量が伸びていない。
ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・ 前年より明らかに天候に恵まれ、引き続き入場者や売上共に前年を上回る傾向にあるが、景気後退の報道もあり、今後の見通しは、まだ分からない。
美容室(店長)	お客様の様子	・ 長いゴールデンウィークで子供がいる家庭は遠出をするが、それ以外の家庭では、庭の手入れ等をしている人が多く、景気は良くなっていない。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕(管理担当)	競争相手の様子	・ 大手の同業他社は好決算が予想され、また、消費税引上げ前の上期駆け込み需要が期待できる。
住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・ 売行きが悪かったマンションが、値引きをしたところ若干動きがみられた。高額物件など、売行きの良い物件は引き続き好調である。
住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・ 消費税経過措置を過ぎたこともあり、受注に関してはやや減少している。
商店街(代表者)	販売量の動き	・ 早めに春夏物の新作を展開しているが、動きが不調である。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・ 食品催事が厳しくなっている。また大型連休の出費に備えることもあり、紳士服の動きが悪い。
百貨店(売場担当)	競争相手の様子	・ 全店での売上合計が9か月ぶりに前年を下回る見込みである。
百貨店(業務担当)	お客様の様子	・ 改元があり、10連休の予定が決まらない客は、消費を抑える傾向がある。情勢に動きがあり、それに注目が集まると購入意欲は慎重である。
衣料品専門店(店員)	単価の動き	・ 10連休中の旅行用需要も多少あるが、全体的にセット率、客単価共に減少している。
観光型ホテル(総務)	来客数の動き	・ 3月の売上は、月次としては過去最も低い数字となった。4月に入っても客足を含め営業全般の出足は鈍い。
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・ ゴールデンウィーク期間は、前年の実績を大幅に超えているが、休み明けの販売がかなり伸び悩んでいる。5月単月で見ると前年割れになり厳しい状況である。

	タクシー運転手	お客様の様子	・改元の影響を受ける業種とそうでない業種がはっきり分かれている。また、業種によっては、今回の10連休が営業に悪い影響を与えている。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・新製品が出ないため、動きが悪い。ネット販売の普及により対面販売が減少しているほか、消費の潜在的動向自体も鈍化している。
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・入学や入園、転勤等により、客の移動があり、状況は悪くなる。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料費や製品、人件費の単価は上がっているが、仕事の対価はむしろ下降傾向である。
	設計事務所（代表）	お客様の様子	・消費税引上げに向けて買い控え状態である。
	× 乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・例年に比べ、来客数が大幅に減少している。
	× 高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月は、県知事選挙や市長選挙、県議会選挙等の選挙前に企業のほとんどが会食に動くことがないため、来店が少なく売上も厳しい月である。
	× スナック（経営者）	来客数の動き	・平日、週末共に売上が良くない。
企業 動向 関連 (九州)	-	-	-
	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・建築工事の遅れにより売上は立たず、受注残のみが増加している傾向である。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先からの6月受注が上方修正されている。
	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・車載関連や5G関連での受注は継続中である。
	通信業（経理担当）	取引先の様子	・取引先との情報交換で、改元に関連する特需の話題があり、今後の状況に期待したい。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・企業の人材投資が活発になっている。
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年3～4月は、移動のシーズン等で居酒屋関連の売上が伸びる月であるが、今月は動きが悪い。スーパーマーケット関連は、前月より良くなっているものの、前年と比較すると弱くなっている。加工メーカーも新年度に入り若干動きが出ているが、期待したほどではない。生産では、原料となる鶏肉の生産が、通常の1割しか商品化できずに大きなロスが出ている状況である。収益的に生産面、販売面にマイナス傾向になっている。
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・市況に着目すると、アスパラガスは例年よりも高い反面、トマトやピーマンは春休みを起点に例年どおり減少傾向となっている。きゅうりは値下がりが多く、産地からの出荷量は変わらないことから、需要が減っている可能性が考えられる。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・家具小売、物件対応共に前年と同じ水準である。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーからの注文に不安定要素が多い。貿易摩擦により受注量が若干落ちている影響で、現在不安定な状況である。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークが10連休という長期休暇の影響で、各荷主からの在庫が多くなり、一部の商品は想定より動かず倉庫に滞っている。特に合成樹脂等は、工場の操業をやめることができないため、売行きが悪くてもある程度の生産は行っており、全国的に保管場所が不足している状況である。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・10連休前とあって、例年以上に物量が動いている。したがって、例年との単純比較はできないが、現在の物量増加分は、ある程度予測の範囲内であり、景気が上向いているとは一概にいえない。人手不足の影響により、人件費高騰や連休中の出勤についての特別手当等が響き、利益率はむしろ下がっている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・人手不足を背景に緩やかながら雇用者所得が増加傾向にあり、百貨店では高額商材を中心に売上が増加している。また、住宅販売も高水準で推移しているが、乗用車の販売がやや伸び悩んでいる。

	金融業（調査担当）	取引先の様子	・企業の動向に大きな変化はみられない。旅行代理店や宿泊施設では、大型連休関連の引き合いが活発である。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業では業種を問わず人手不足が慢性化しており、また建築単価の高騰により、設備投資を見合わせている企業も多い。
	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・改元による新聞広告出稿はあったものの、瞬間的なものであり景気は停滞している。
	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・定例交流会の近況報告では、営業活動はそれほど活発ではなく、反応は余りない状況である。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・3月決算企業のヒアリングを行うと増収増益の企業が多い。一見好景気のようなが、各社からは景気の良い話は少なく、今後の景気に楽観はできず危惧している。保険を活用した全額損金処理ができなくなり、償却資産の更新も増加すると考えられる。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年初めの受注量が、前年比で7割程度の状況で、前月更に減少している。特に半導体業界の景気が悪い。
	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・客の生産ラインが止まり動いていない。在庫も抱えており、市場の動きが読めない。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・地方の業者は、公共事業依存が非常に多いため、公共工事の少ない年度初めは非常に景気が悪い。当社には、民間工事の受注もあり暇ではないが、官公庁の発注が5月末のため、非常に苦しい状態である。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・輸出向け健康食品の受注件数が減少している。当局規制により、輸出制限があることも要因であるが、1件当たりの受注量も減少している。
	金融業（営業）	取引先の様子	・米中貿易摩擦等の要因で製造業の需要は減退気味であったが、ここにきて顕在化している。製造業全般で受注が減少している。
	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・訪日外国人の来店が減っている。来店しても安価な商品を求める傾向にある。
	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・賃金上昇分の工賃値上げをしてもらえず、中小企業の下請工場では、大変危惧している。現状のままであれば、廃業も考えなければならず、先行き不安である。
	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村からコンサルタントへ、福祉に関する調査や計画策定に関する指名競争入札が4月に幾つか実施されたが、予定価格の3～4割の値段で落札する業者が多く、ダンピングが前年度より激しくなっている。落札価格は、人件費や郵送料等で利益が出ない価格となっていることから、仕事が少ない状況を反映している。
雇用 関連 (九州)	-	-	-
	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・連休も重なり、求職者数、採用社数共に目立った動きがなく、停滞する時期である。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が減っている。例年同時期に注文を受ける企業から今回は注文がない状態である。また、人材不足により人選が進まず、その結果、求人を探る職場もある。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）やコールセンターの求人依頼については、引き続き依頼があるものの、小規模事業者からの派遣依頼は少ない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・特徴的な動きはない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・ここ数年、訪日外国人の需要に支えられているが、今年に入り大型外国旅客船を例年より見かけなくなっており、寄港数が明らかに減ってはいるものの、景気には影響されていない。しかし、今後は訪日外国人需要だけでなく、国内での消費も必要になる。

	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・ 4月 は熊本地震の発生月で、今年で3年になる。各地で区切りの行事が行われ、復興支援の大イベント等にぎわい、創出につながっている。しばらくは良い状態が継続する。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 求人数が頭打ちである。また、求職者も若干の増加傾向であり、総じて景気は、横ばい状態ある。
	学校 [大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・ 2020年卒業の採用活動に向けて、企業の動きは活発である。しかし、求人の受理件数は前年比より減少しており、企業側の採用活動が前倒しされていることが原因と推察する。
	*	*	*
x	-	-	-